

美しく



ふれあいのある街

# たかくら



高蔵校区社会福祉協議会

小地域福祉活動第一次計画

<令和6年～令和10年>

# ごあいさつ

# もくじ

## 「美しくふれあいのある街たかくら」

ごあいさつ・もくじ 1 P

自然に恵まれた環境の中に位置する高蔵校区は、今から45年前に吉田小学校から分かれて誕生しました。その10年ほど前から市営・県営団地ができはじめ、子どもの数が増えてきた流れからでした。

現在は校区に9町内があり、そのうちの8町内が団地内にあります。この7年間で団地内の2町内が町内会を離脱しています。高齢化率が36%を超えて一人暮らしの孤老世帯が増え、町内会として共生する力が衰えてきたことが背景にあります。昨今の急速な高齢化社会を反映した諸課題が団地内に顕著に現れています。

高蔵校区社会福祉協議会が設立されたのは、今から22年前でした。高蔵市民センターができる4年前のことです。

現在、高蔵校区の住民にとって「見守り・助け合い・話し合い」の整備が喫緊のものとなっています。「北九州市地域福祉活動第六次計画」の趣旨に沿って、小地域での中長期の活動計画を策定し、段階的な取組を進めていくことが迫られています。住民が安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、校区社会福祉協議会関係者が地域情報を共有しながらこれまで以上にきめ細かな支援を行い、校区住民のつながりづくりに取り組んでまいります。

高蔵校区社会福祉協議会

会長 神代 秀則



第1章 計画の策定にあたって 2 P

- 1 計画の性格
- 2 計画の期間
- 3 計画の策定経過

第2章 高蔵校区の現状と課題 3 P

- 1 地域社会の動向
- 2 地域の福祉課題

第3章 第一次計画の体系 4 P

- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 実施項目(体系図)
- 4 基本目標 5 P

第4章 計画の推進 8 P

- 1 地域への計画の承認と周知
- 2 計画を推進するための体制
- 3 第二次計画の策定

参考資料 9 P

- 1 策定委員会名簿
- 2 策定委員会での協議事項



# 第1章 計画の策定にあたって

## 1 計画の性格

### (1) 住民発信の行動計画

この計画は、高蔵校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しをもって計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

### (2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、高蔵校区に住む人たちの「安全・安心な生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

### (3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会、小倉南区社会福祉協議会と共同する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉南区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

### (4) 高蔵校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

## 2 計画の期間

第一次計画は、令和6年度から令和10年度までの5ヶ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば見直しを行います。

## 3 計画の策定経過

高蔵校区では、第一次計画策定委員会や地域福祉活動に取り組む関係機関・団体からの幅広い意見などを踏まえて、住民主体の地域福祉に関する計画を策定するため、小地域福祉活動第一次計画策定委員会を設置しました。



## 第2章 高蔵校区の現状と課題

### 1 地域社会の動向

高蔵校区のデータ

令和5年3月現在

人口	3924人	小学校	高蔵小学校
世帯数	2175世帯	中学校	吉田中学校
高齢化率	36.6%	市民センター	高蔵市民センター
75歳以上人口割合	20.8%	地域包括支援センター	小倉南2
その他社会資源等	みつばち保育園 白鳩保育園 吉田幼稚園 高蔵小学校 ひらのサンタキッズクリニック 三好歯科医院 グループホームみどり		

高蔵校区は、小倉南区の最も北東、門司区との境界地域に位置しています。校区のほとんどが平地で面積は狭く、西側は高蔵山などの山間部、東側はバイパスを挟んで吉田校区があり、南側は沼校区と隣接しています。

校区のほぼ中央に高蔵小学校が位置し、西側は県営吉田団地、その手前は市営吉田団地と大規模な団地群があります。小学校の北側は田畑が多く、ここ数年は新興住宅地となっており、若い世代の転入が目立ちます。小学校の南側は平成21年度以降、長屋の市営住宅からバリアフリーの市営住宅に建て替わり、高齢者や母子家庭などの転入が見られます。高齢者人口が上昇傾向にあり、高齢化が進む地域でもあります。平成21年に「ドットあーるガーデン小倉（スーパー、ドラッグストア、本屋、飲食店など）」ができ、住民の消費生活の場となっています。

### 2 地域の福祉課題

高蔵校区は、住民の8割以上が公営住宅（県営吉田団地、市営吉田団地）に住んでいます。地域と馴染みのない子育て世代や高齢者も多く、孤立しやすい状況にあります。

福祉協力員等福祉活動者の平均年齢が高く、福祉協力員一人当たりの見守り世帯も50世帯を超えており、負担が大きくなってきています。そのため、福祉活動者の早急な育成が求められています。

福祉活動を進めていく上での課題として挙げられるのが、見守りが必要な方の情報が十分に得られていないという点です。特に、子育て世代の家庭状況は把握が難しく、支援の手が届きにくい状況です。

# 第3章 第一次計画の体系

## 1 基本理念



### 「美しくふれあいのある街 たかくら」

高蔵校区では、子どもから高齢者まで障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して安全に暮らしていけるまちにしたいと願っています。

そこで、地域の特性を踏まえ、住民の皆さんが理解と参画を得ながら地域団体や関係機関との連携のもと、「美しくふれあいのある街 たかくら」を基本理念として小地域福祉活動第一次計画を推進していきます。

## 2 基本目標

- (1) 「美しくふれあいのある街」をめざして、つながりを深めよう  
交流する機会を積極的に作り、地域住民のつながりを深めます。
- (2) 健康づくりに取り組み、体力の維持に努めよう  
子どもから高齢者までが心身ともに健康で、笑顔で過ごせるように努めます。
- (3) 福祉情報の送受信に努め、福祉活動の輪を広げよう  
福祉情報を積極的に広報し、福祉活動への理解を広めます。

## 3 実施項目(体系図)

基本理念 美しくふれあいのある街たかくら	基本目標(1) 「美しくふれあいのある街」をめざして、つながりを深めよう	○美化活動を通して ○「ふれあい昼食交流会」を通して ○「元気な高蔵夏まつり」を通して ○「秋の高蔵ふれあいまつり」を通して ○「高蔵ふれあい子どもまつり」を通して
	基本目標(2) 健康づくりに取り組み、体力の維持に努めよう	○「健康ウォーキング」を通して ○「寄り道ウォーキング」を通して ○「校区グラウンドゴルフ大会」を通して ○「健康づくり講座」「健康料理」の充実 ○「健康診査」の受診促進
	基本目標(3) 福祉情報の送受信に努め福祉活動の輪を広げよう	○要支援者・見守り世帯の把握と見守り活動の強化 ○連絡調整会議の充実 ○地域の施設・学校等との連携 ○広報メディアの活用(センターだより・HP等)

#### 4 基本目標

基本目標(1)		「美しくふれあいのある街」をめざして、つながいを深めよう					
<b>1 課題背景及び地域の現状</b>							
<p>地域の高齢化が進む中、コロナ禍の影響もあって家にこもる人が増え、住民同士が関わり合う場が少なくなってきている。そのため、互いへの関心も薄れてしまい、地域住民のつながりが希薄になってきている。一人一人や各世帯が置かれている問題を地域の福祉課題として受け止めることができていない現状がある。</p>							
<b>2 活動の方針・目標</b>							
<p>地域住民が気軽に寄り合い、心地よく過ごす場と時間をつくる。          そのために、取組への参加を呼び掛ける声かけを具体化し、きめ細かな実践を維持・発展させながら積み重ねる。          5年をかけて取組の協力者と参加者を増やす過程で、地域住民のつながりの輪を広げ、強める。</p>							
<b>3 段階的な取組の年次計画</b>							
取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
「美化活動(まち美化・花壇・パネル)を通して	まち協・自治連環境衛生会・小、中学校・市民センター	→					まち美化年3回実施 毎回70名 花壇・パネルの維持
「ふれあい 昼食交流会」を通して	まち協・自治会・食進・老人会・校区施設・市民センター	→					年6回開催 毎回の参加者30名
「元気な高蔵 夏まつり」を通して	まち協・自治会 PTA・小、中学校・幼稚園・保育園・地域施設・市民センター	→					地域ボランティアのべ100名 外国人技能実習生20名 参加者 1200名
「秋の高蔵 ふれあいまつり」を通して	まち協・自治会・食進・保育園・幼稚園 小、中学校・各クラブ・市民センター	→					ステージ出演 団体15・観覧席70席 作品展示 団体・個人12
「高蔵ふれあい 子どもまつり(ゲーム大会・もちつき)」を通して	まち協・自治会・食進 PTA・小、中学校 市民センター	→					地域ボランティアのべ70名 参加者200名

基本目標(2)	<b>健康づくりに取り組み、体力の維持に努めよう</b>
---------	------------------------------

### 1 課題背景及び地域の現状

地域の高齢化が顕著な本校区において、「健康寿命を延ばすこと」は喫緊の課題である。そのために重要な「フレイル予防」に積極的に取り組む必要がある。また、「病気の予防」に大きな役割を果たす「健診受診」においても、特定健診(40歳～74歳)受診率 29.5%、後期高齢者健康診査受診率 13.1%と小倉南区平均を下回る現状がある。(特に、40歳～64歳の働き盛りの世代の健診受診率が低いことも明らかとなっている)

このような地域の現状を鑑み、その課題改善に結び付く取組を意図的に仕組んでいく必要がある。

### 2 活動の方針・目標

「健康づくり」「体力の維持」のために、「①運動」、「②社会参加」、「③健康意識の向上」の『3つの柱』からアプローチしていくことが重要であると考えた。

そのために、既存の活動を意図的に強化・充実させることを5年間で積み重ねていくことを基本方針としたい。

その結果として、本校区住民の健康意識が向上し、様々な健康課題が改善の方向に前進していくことを包括的な目標としたい。

### 3 段階的な取組の年次計画

取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標	
「健康ウォーキング(春・秋2回)」・「寄り道ウォーキング(年4回)」を通して	まち協 健康づくり推進員 市民センター	▶▶▶▶▶▶					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           広報の強化で活動の発展的維持、新規参加者の勧誘         </div>	年間開催回数の維持 毎回20名程度の参加者 新規参加者の増加
「校区グラウンドゴルフ大会」を通して	まち協・自治会 老人会・PTA 小、中学校 市民センター	▶▶▶▶▶▶					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           広報の強化で活動の発展的維持、幅広い年齢層への拡大         </div>	毎年開催の継続 毎回の参加者70名
「健康づくり講座」「健康料理」の充実	健康づくり会議 食生活改善推進員 地域施設 市民センター	▶▶▶▶▶▶					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           ニーズに合った講座の提供、広報の強化         </div>	健康関連講座年5回実施 (健康づくり会議・地域施設と協力) 毎回の参加者30名 隔月の「健康料理」実施
「健康診査」の受診促進	保健師 まち協・自治会 市民センター	▶▶▶▶▶▶					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           広報の強化(自治会・老人会等からの声かけ)         </div>	市民センターでの集団検診20名以上の受診 特定健診・後期高齢者健康診査受診率5ポイントアップ

基本目標(3)

福祉情報の送受信に努め、福祉活動の輪を広げよう

1 課題背景及び地域の現状

本校区には、吉田団地(市営住宅・県営住宅)があり多くの住人が生活している。しかしその高齢化は顕著で、独り暮らしや高齢夫妻のみの世帯も増えている。この傾向は、集合住宅に限らず、戸建ての住民でも同様のケースが多く見られる。近隣との人間関係が希薄な場合、要支援者・見守り世帯の把握が困難で、福祉の手が差し伸べられずに孤立化してしまうことも少なくない。

このような地域の現状から、福祉活動の輪を意図的に広げていく取組を展開していく必要がある。

2 活動の方針・目標

福祉活動の輪を広げていくために、まず重要なことは「要支援者・見守り世帯の把握」であり、そのための活動に力を入れなければならない。その上で、具体的な支援の方略を「連絡調整会議」で検討していく必要がある。

また、様々な福祉情報を入手しにくい環境の住民も想定されるため、地域の施設・学校等との連携や、市民センターだより等の広報メディアの活用も強化しなくてはならない。

このような取組の積み重ねで、5年後には、よりよい「福祉の輪」が広がる地域を目指したい。

3 段階的な取組の年次計画

取組内容	連携する機関	R6	R7	R8	R9	R10	5年後の達成目標
要支援者・見守り世帯の把握と見守り活動の強化	まち協・自治会 社協・民生委員 福祉協力員	 情報収集の強化と情報の共有化					各会議等で気になる世帯の情報により集まるようになり、共有化できる
連絡調整会議の充実	まち協・自治会 社協・民生委員 福祉協力員・保健師	 定期的会議の開催と具体的な課題の検討					既存会議の維持・継続 具体的方策の検討と実施がよりスムーズになる
地域の施設・学校等との連携	まち協・自治会 社協・民生委員 地域施設 小、中学校	 情報の送受信の強化と連携の深化					地域施設・学校との情報のやり取りをよりスムーズにする
広報メディアの活用 (センターだより・HP等)	まち協・自治会 社協・民生委員 市民センター	 広報の強化で必要な情報を届ける					市民センターだより、回覧板、HP、LINE等情報発信の多様化を図る

## 第4章 計画の推進

### 1 地域への計画の承認と周知

- (1) 高蔵校区社会福祉協議会総会等を通じ、計画の承認と周知を行います。
- (2) 計画の実施項目を進めていくため、関係機関・団体への周知・協力依頼を行います。
- (3) センター日より、ホームページへの掲載等を通じ、地域住民への周知を行います。  
その他、計画を推進していくために広報活動を行います。

### 2 計画を推進するための体制

#### (1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、高蔵校区小地域福祉活動第一次計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

などについて、推進委員会では協議を進めていきます。

#### (2) 計画の進行管理(推進委員会の開催)

推進委員会を適宜開催し、次の点について確認します。

- ① 事業推進の計画・実行
- ② 事業推進の進捗状況の確認

#### (3) 計画の評価

計画の中間年度に計画全体の中間見直しをし、最終年度に総括評価を行います。

### 3 第二次計画の策定

第一次計画の進捗状況を踏まえて、第二次計画の策定時に新たに第二次計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けての協議を進めていきます。



#### 4 高蔵校区小地域福祉活動第一次計画推進委員会（策定委員会）名簿

	氏名	所属団体・役職など
1	神代 秀則	高蔵校区社会福祉協議会・まちづくり協議会・自治連合会 会長 吉田団地第2町内自治会長
2	沖潮由美子	高蔵校区社会福祉協議会書記 高蔵校区まちづくり協議会会計 男女共同参画地域推進員
3	古野 淳子	高蔵校区社会福祉協議会会計 高蔵校区まちづくり協議会委員 食生活改善推進員
4	中村 憲彦	高蔵校区社会福祉協議会監査 高蔵校区まちづくり協議会監査 高蔵校区自治連合会会計
5	中村 善行	高蔵校区社会福祉協議会監査 高蔵校区まちづくり協議会監査 小倉南警察署少年補導員
6	武田 徹	高蔵校区社会福祉協議会理事 高蔵校区まちづくり協議会委員 保護司会代表
7	神田 富子	高蔵校区社会福祉協議会理事 高蔵校区まちづくり協議会委員 高蔵地区民生委員児童委員協議会会長
8	濱中 悟	高蔵校区社会福祉協議会理事 高蔵校区まちづくり協議会委員 健康づくり推進員 北九州市立高蔵市民センター職員
9	上野 良子	高蔵校区まちづくり協議会委員 子育てサポーター 吉田団地第7町内自治会長 食生活改善推進員
10	中村 章	高蔵校区社会福祉協議会顧問 高蔵校区まちづくり協議会事務局 北九州市立高蔵市民センター館長
11	城戸 祥次	高蔵校区社会福祉協議会顧問 高蔵校区まちづくり協議会委員 北九州市立高蔵小学校校長

#### 【参考資料】 策定委員会及び役員会での協議事項

	開催日	主な協議事項
1	令和4年12月15日(木)	役員会議(来年度の計画策定に向けた準備①) ・計画書策定の意義について ・計画書策定に関する意見交換 (計画書の必要性を話し合う)
2	令和5年 1月10日(火)	連絡調整会議(来年度の計画策定に向けた準備②) ・グループワーク体験 【題1:今年してみたいこと 題2:高蔵校区のいいところ】
3	令和5年 3月14日(火)	連絡調整会議(来年度の計画策定に向けた準備③) ・計画策定への理解(高蔵校区5年後の姿を描く) ・グループワークの意味を考える

		(みんなの意見抽出)
4	令和5年 4月18日(火)	連絡調整会議 ・議題抽出のグループワーク (題:高蔵校区の気になるところ)
5	令和5年 5月16日(火)	連絡調整会議 ① 策定委員会について(候補者選出、開催予定) ② 策定委員会で行うことの整理 ・課題解決に向けた意見抽出(解決に何が必要?) ・健康問題を考える(保健師の講話:血圧のお話)
6	令和5年 7月18日(火)	連絡調整会議 ・地域の課題と課題解決に向けた意見の整理 ・世代別の健康づくりの取組把握と意見抽出 (アンケート実施)
7	令和5年 9月12日(火)	役員会議(計画書のたたき台作成についての話し合い) 連絡調整会議 ・健康づくりのアンケート結果について ・計画書の形と基本理念について(基本理念決定) ・校区行事及び見守り(題:こんな方が多くなった)への意見抽出
たたき台の作成(グループワーク等で出た意見を反映させる)		
8	令和5年11月14日(火)	役員会議(たたき台の内容についての意見交換) 連絡調整会議 ・たたき台の内容説明 ・健康講話と健康づくりの基本計画 (アンケート結果を反映)
たたき台の修正		
9	令和6年 1月9日(火)	役員会議(計画書概要の説明) 連絡調整会議 ・計画書の内容説明
10	令和6年 3月12日(火)	役員会議 (計画書の承認・印刷・発行及び周知広報計画) 連絡調整会議 ・計画書の最終確認 ・計画書の発行及び周知広報 (社会福祉協議会会議)

★社会福祉協議会のイメージキャラクター★



「フチボザウルス」(Petit vo saurus)

Petit(フチ:ちっちゃな)

Volunteer(ボランティア)

Saurus(サウルス≡恐竜)

高蔵校区社会福祉協議会

〒800-0201 北九州市小倉南区上吉田三丁目1番1号 高蔵市民センター内  
TEL 093-472-1775 FAX 093-472-1776

小倉南区社会福祉協議会

〒802-8510 北九州市小倉南区若園五丁目1番2号  
TEL 093-951-5388 FAX 093-951-5391

北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1番6号 ウェルとばた内  
(代表) TEL 093-882-4401 FAX 093-882-3579  
(地域福祉部) TEL 093-882-4425 FAX 093-873-1351